

徳田の歴史-20

高井遺跡/畑遺跡(丸尾谷)

1/2

①高井遺跡

徳田町西部域を南北に走る中勢バイパス建設工事(平成 7～8 年)に伴って調査発掘された遺跡です。中ノ川中流域左岸に位置し横知地区の北西数百メートルの地点にあります。

発掘された遺跡は低地より5m 位小高い丘陵地帯の裾野に位置しています。付近は“高井(字名)”と呼ばれている田んぼが広がっています。集落跡や貴重な土器(片)も多数発見され集落の中心は奈良時代(710～794 年)～平安時代(794～1185年)にかけてのものと思われる。

この頃より高井周辺には人が住みつき“条里制”の水田を利用し稲作をしていたのではないかと思います。



左の小高い丘は中勢バイパス、
奥が稲生方面。
付近は高井(字名)と呼ばれてい
る田んぼ地帯

②畑遺跡(丸尾谷)

伊勢鉄道施設に伴い昭和 41 年 3 月に調査発掘された遺跡である。場所は徳田町字畑地区、中ノ川中流域南岸近くに位置する標高 15～18m の河岸段丘上にあります。(丸尾谷より郡山町染野付近に至る地域)

崩れた崖の断面には弥生時代(B.C.300～A.D.250年)後期のものと思われる住居の柱穴や溝状の遺構も見受けられ又土器類も多数(約 200 点)出土されています。

この地域には弥生時代後期より人が住みつき 4 世紀頃には土器を使用する住居を営み又次の古墳時代(3世紀～6世紀)後期から始まった“条里制”の水田を耕作していたものと思われます。



丸尾谷付近
高架は伊勢鉄道、
奥は中瀬古駅方面

鈴鹿市史、郷土史、年配者話等参照